経営比較分析表（令和4年度決算）

埼玉県　草加市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Aa	非設置
資金不足比率(%)	**自己資本構成比率(%)**	**普及率(%)**	**有収率(%)**	**1か月20m^{3}当たり家庭料金(円)**
-	71.38	98.07	88.56	1,947

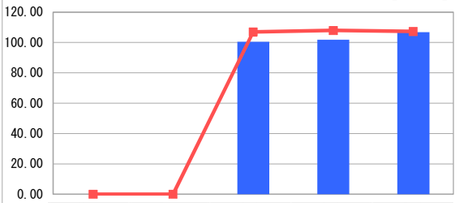
人口（人）	面積(km^2)	人口密度(人/km^2)
250,966	27.46	9,139.33
処理区域内人口(人)	**処理区域面積(km^2)**	**処理区域内人口密度(人/km^2)**
246,132	24.48	10,054.41

グラフ凡例
- ■　当該団体値（当該値）
- ー　類似団体平均値（平均値）
- 【】　令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性

①経常収支比率(%)

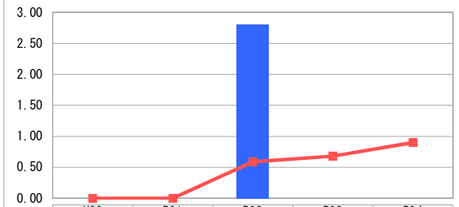
【106.11】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	-	-	100.46	101.84	106.82
平均値	-	-	107.09	107.96	107.29

②累積欠損金比率(%)

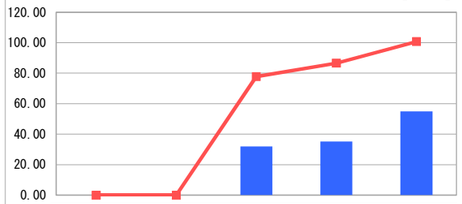
【3.15】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	-	-	2.80	0.00	0.00
平均値	-	-	0.59	0.68	0.90

③流動比率(%)

【73.44】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	-	-	32.02	35.15	54.97
平均値	-	-	77.72	86.61	100.73

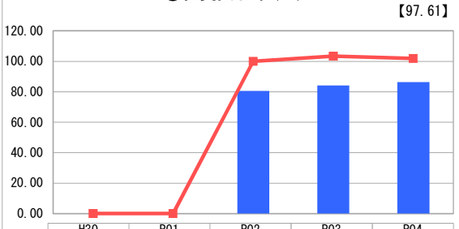
④企業債残高対事業規模比率(%)

【652.82】

	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	-	-	0.00	0.00	615.41
平均値	-	-	485.60	463.93	481.88

⑤経費回収率(%)

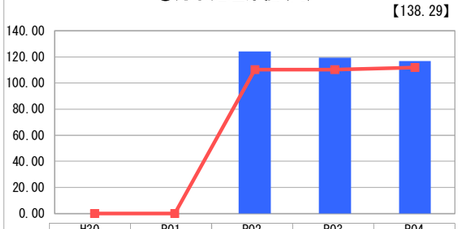
【97.61】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	-	-	80.46	84.08	86.29
平均値	-	-	99.95	103.40	101.87

⑥汚水処理原価(円)

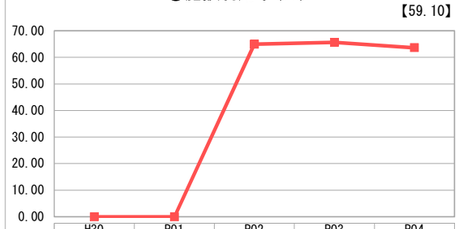
【138.29】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	-	-	124.25	119.41	116.72
平均値	-	-	110.21	110.26	111.88

⑦施設利用率(%)

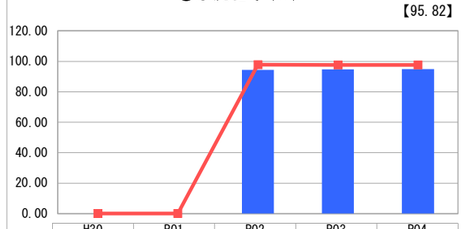
【59.10】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	-	-	-	-	-
平均値	-	-	64.93	65.68	63.62

⑧水洗化率(%)

【95.82】

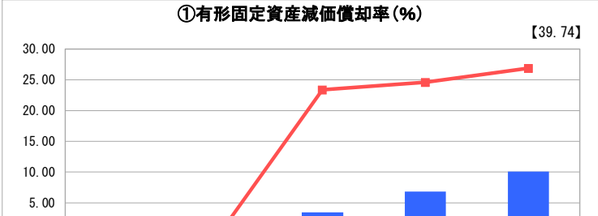


	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	-	-	94.31	94.70	94.83
平均値	-	-	97.70	97.59	97.53

2. 老朽化の状況

①有形固定資産減価償却率(%)

【39.74】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	-	-	3.46	6.84	10.09
平均値	-	-	23.38	24.59	26.87

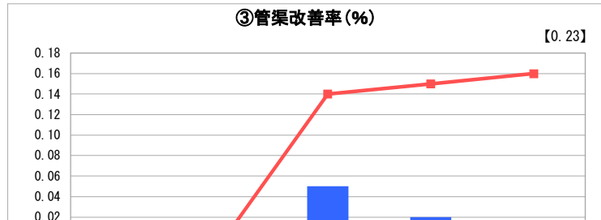
②管渠老朽化率(%)

【7.62】

	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	-	-	0.00	0.00	0.03
平均値	-	-	8.20	9.43	12.40

③管渠改善率(%)

【0.23】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	-	-	0.05	0.02	0.01
平均値	-	-	0.14	0.15	0.16

※　「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみの類似団体平均値及び全国平均を算出しています。

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①②経常収支比率、累積欠損金比率
　経常収支比率は令和３年度よりも増加しており、100%を上回っています。一方で、類似団体平均を下回っています。
　累積欠損金比率については、令和４年度では０%です。一方で、類似団体平均では累積欠損金比率が増加しています。
　経常収支比率が100%を上回り、累積欠損金比率は0%となっていますが、下水道事業では基準外繰入金を受け入れていることから、引き続き水洗化率の向上などにより使用料収入の増加を図ることや、管渠の維持、更新にかかる費用の抑制を図っていく必要があります。
③流動比率
　流動比率は令和３年度よりも増加しましたが100%を下回っています。
　このため、現金などの流動資産を増やしつつ、流動負債の削減、抑制を図っていく必要があります。
④企業債に対する負担額の考え方を整理したため、指標が計上されました。
⑤⑥経費回収率、汚水処理原価
　経費回収率は令和３年度よりも増加しましたが100%を下回っています。また、類似団体平均を下回っています。
　汚水処理原価は令和３年度よりも減少しましたが、類似団体平均よりも高い状況にあります。
　経費回収率と汚水処理原価を改善するには、水洗化率の向上を図ることや適切な使用料水準を検討すること、また、維持管理や支払利息に係る費用について削減、抑制を図っていく必要があります。
⑧水洗化率
　水洗化率は令和３年度よりも増加しましたが、類似団体平均と比べると若干低い状況にあるため、水洗化の啓発活動などを引き続き行います。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
　有形固定資産減価償却率は、令和３年度よりも増加していますが、類似団体平均を下回っています。
　これは、令和２年度に企業会計を適用してから年数がそれほど経過していないため、減価償却累計額の累積が類似団体平均ほどになっていないためです。
②管渠老朽化率
　管渠老朽化率は、令和３年度よりも増加していますが、類似団体平均を下回っています。今後は耐用年数を経過する管渠が増加する見込みです。
③管渠改善率
　管渠改善率は類似団体平均を下回っています。今後も下水道の機能を維持していくためには、計画的な管渠改善を行う事や、管渠の清掃、修繕といった維持管理を引き続き行う必要があります。

全体総括

　令和４年度は令和３年度よりも経常収支比率が増加しており、経営状況が改善しています。
　流動比率については類似団体平均を下回っており、今後も流動資産を蓄積していく必要があります。
　経費回収率については令和３年度よりも増加しているものの100%を下回っていることから、今後も使用料収入の増加を図ることや、汚水処理原価の削減、抑制を図る必要があります。
　管渠については老朽化が進んでいる状況ですが、ストックマネジメント計画に基づく計画的な更新や清掃、修繕などの維持管理を続けていきます。